

## 社会福祉法人はどのように社会貢献を行うか

### 提言

住民、NPOや社会福祉法人間のネットワークなどみんなで「楽しく」、互いができないことを補い合って「楽に」、「地域とともに、地域課題の解決に取り組もう」

### 登壇者

【進行役】	諏訪 徹氏	日本大学文理学部社会福祉学科教授
	川邊 弘美氏	(社福) 芦別慈恵園理事・総合施設長
	宮田 裕司氏	(社福) 全国社会福祉法人経営者協議会地域共生社会推進委員会委員長
	杉 啓以子氏	(社福) 江東園経営企画管理室(TQM) 本部長
	高杉 威一郎氏	(社福) 峰栄会特別養護老人ホームさぎの宮寮施設長
	中島 浩氏	(社福) 福津市社会福祉協議会
	川内 みより氏	(社福) 恵仁会・鹿屋市第1層・第2層SC

### 議事要旨 諏訪 徹氏

分科会48は、2016年の社会福祉法改正で社会福祉法人に義務づけられた地域における公益的な取組（以下「地域公益活動」）をテーマにしました。

まず全国経営協の立場の宮田さんから、社会福祉法人の歴史を紐解きつつ、「そもそも地域のための法人だった」「法改正によって義務化されたからやるものではない。やって当たり前のもの」という、共通に認識すべき前提が提示されました。宮田さんの指摘どおり、パネリストの法人による取り組みは、法改正以前からのものです。

川邊さんは、特別養護老人ホームが地域のボランティアのサポーターと一緒に「えがお塾」（脳・健康教室・健康体操教室）について報告されました。住民と介護・医療の専門家が共に介護を考える地域づくり・仲間づくりをすすめる「みんなで介護を考える会」にも取り組んでいます。「これからもアンテナを高く、自分たちにできることを見つけて実践していきたい」と抱負を話されました。

高杉さんからは、NPO法人と協働で取り組んでいる常設型のオープンカフェ（共生型の居場所）について報告がありました。NPOメンバー、地域住民、併設する認定こども園の園児、特別養護老人ホーム利用者の皆さんがまざりあう「ぐちゃぐちゃ感」のある「ちょっと違う場所」であることが、集うみんなと法人職員に活気をもたらしています。

杉さんは、有志の住民からの提案から始まった「江戸川みまもり隊」（2町会と1つの都営団地での週3回の

見守り活動）の実践を紹介されました。「法人は専門職の宝。その資源を地域にいかせないか」という思いと、「一人で熱中症で亡くなるようなことがない地域を創りたい」という住民の思いが結びついて生まれた実践です。子どもたちも巻き込んで取り組む「江戸川スマイルプロジェクト」（認知症の人やみんなにやさしいまちづくり）にも取り組んでいます。

川内さんの報告は、地域のコミュニティ協議会・社協の協力要請を受け法人が参加した「ドライブサロン事業」（買物支援）についてでした。「高齢になっても買物のために車が手放せない」「やっぱり自分の目で見て買いたい」という住民の切実なニーズに応えた活動です。

中島さんは、市社協の立場で市内法人が協働して地域公益活動への取り組みを行う「社会福祉法人連絡会」の立ち上げに携わりました。その取り組みと生活支援体制整備事業の取り組みが合流し、企業（ショッピングセンター）、法人ネットワーク、地域のサロン活動が連携した「サロン＆買物ツアー」が生まれました。小規模な社会福祉法人の「公益的な取組をする余裕がない」「なぜ業務外事業をやらないといけないのか」などの声を受け止めながら、地域課題の解決にむけた次のアクションも検討されています。

最終的には、住民、NPOや社会福祉法人間のネットワークなどみんなで「楽しく」、互いができないことを補い合って「楽に」、「地域とともに、地域課題の解決に取り組もう」と提言しました。

### アンケートの結果 参加者概数：68名 回答者数：48名

